



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 JEUGIA  
 コード番号 9826 URL <http://www.jeugia.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長兼経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 山田 陽一  
 (氏名) 山根 篤

TEL 075-255-1566

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
26年3月期第2四半期	4,099	△7.8	42	△63.6	50	△54.5	9	△81.6	
25年3月期第2四半期	4,447	△3.0	117	27.9	110	41.5	50	70.5	
1株当たり四半期純利益			潜在株式調整後1株当たり四半期純利益						
			円 銭						
26年3月期第2四半期			1.12						
25年3月期第2四半期			6.08						

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
26年3月期第2四半期			5,708			40.7
25年3月期			6,253			37.6

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 2,323百万円 25年3月期 2,354百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
25年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	3.00	3.00
26年3月期	—	0.00	—	3.00		
26年3月期(予想)	—	0.00	—	3.00		3.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	8,500	△1.3	160	0.3	150	△13.6	50	△25.7	6.07	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### ※ 注記事項

##### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧下さい。

##### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 無
② ①以外の会計方針の変更	: 無
③ 会計上の見積りの変更	: 無
④ 修正再表示	: 無

##### (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	8,272,500 株	25年3月期	8,272,500 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	36,385 株	25年3月期	35,890 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	8,236,411 株	25年3月期2Q	8,237,279 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	経営成績に関する説明	2
(2)	財政状態に関する説明	2
(3)	業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2.	サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1)	四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2)	会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3.	四半期財務諸表	4
(1)	四半期貸借対照表	4
(2)	四半期損益計算書	6
	第2四半期累計期間	6
(3)	四半期財務諸表に関する注記事項	7
	(継続企業の前提に関する注記)	7
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
4.	補足情報	7
	売上高の状況	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の積極的な経済・金融政策に対する期待感から円安、株高が進行し、景況感には改善の動きが見られ回復に向けた兆しが現れてきましたが、一方で、円安による輸入価格の上昇などの下振れ要因もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下で当社は、教室事業の拡大に重点を置いた事業構造の転換を進めてまいりました。教室では、教室環境を整えて「安全・安心」などの顧客サービス向上を図るため、福岡市中央区のカルチャーセンター、京都市西京区、伏見区の音楽教室をそれぞれ移転リニューアルし、快適で安心な教室づくりを行いました。特に音楽教室では、「大人のための音楽教室」の新規会員募集を重点業務として取組み、また、既存教室での会員定着化を図るため、発表会や会員コンサート等の顧客参加型イベントを積極的に開催いたしました。

店舗では、未だ厳しい市況が継続する中、前期末に全面リニューアルを行った京都市中京区の三条本店を中心に、新たな需要を創造するための店舗内イベントや各楽器毎のフェア、セール等を積極的に開催いたしました。また、前期に更新した楽器の在庫管理システムを最大限に活用し、顧客ニーズの変化に対応した品揃えや、顧客の目線に沿った店づくり、売場づくりなどを推進してまいりました。

売上高の状況は、カルチャーセンターの教室収入が、ホームページのリニューアルを実施して顧客の利便性向上に努めた結果、健康関連講座や京都特別講座などを中心に会員募集が堅調に推移し、増収となりました。一方、音楽教室の収入では、前期末に開設した「大人のための音楽教室」の新店効果により大人会員は増加しましたが、子供会員の減少が続き、減収となりました。商品売上高は、楽器がギター関連と鍵盤楽器を中心に厳しい状況が続き、また、AVソフトも前期に閉鎖した2店舗の影響もあり減収となりました。

利益の状況は、売上総利益率の改善や販売経費等の効率化を進めましたが、売上高の減収に伴う売上総利益の減少を補うに至らず、また、前期末の設備投資に伴う償却費も増加したことから営業利益、経常利益、四半期純利益はそれぞれ減益となりました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高40億99百万円（前年同期比7.8%減）、営業利益42百万円（同63.6%減）、経常利益50百万円（同54.5%減）、四半期純利益9百万円（同81.6%減）となりました。

セグメント別の売上高の状況は、次のとおりであります。

#### (店舗事業部)

売上高は、前年同期に比べ2億48百万円（13.4%）減少し、16億1百万円となりました。楽器は、管弦楽器、アコースティックギターは堅調に推移したものの、エレキギターが前期からの厳しい状況が続きました。AVソフト商品も、旧譜CDや名作DVDを中心に推奨販売を強化いたしましたが、新譜に大型のヒット作品がなかったことと、前期に閉鎖した店舗の影響が重なり減収となりました。

#### (音楽教室事業部)

売上高は前年同期に比べ1億20百万円（8.7%）減少し、12億74百万円となりました。音楽教室が春の新規会員募集に苦戦したことで子供会員が減少したこと、また、ピアノ、電子オルガンなど鍵盤楽器の販売も回復せず減収となりました。

#### (カルチャーセンター事業部)

売上高は前年同期に比べ21百万円（1.8%）増加し、12億23百万円となりました。子供のダンス講座人気には、一段落の兆しがあるものの、地域特性を加味した講座開発、特に京都をモチーフとした特別講座などを積極的に行うことで、関東、九州エリアを中心に順調に推移し増収となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前期末に比べ5億44百万円（8.7%）減少し、57億8百万円となりました。

流動資産は前期末に比べ4億57百万円（15.4%）減少し、25億17百万円となりました。これは主に現金及び預金が3億2百万円（21.3%）減少したことによるものであります。

固定資産は前期末に比べ86百万円（2.6%）減少し、31億91百万円となりました。これは主に投資その他の資産が70百万円（5.0%）減少したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前期末に比べ5億13百万円（13.2%）減少し、33億85百万円となりました。

流動負債は前期末に比べ2億56百万円（9.5%）減少し、24億50百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が1億34百万円（22.3%）減少したことによるものであります。

固定負債は前期末に比べ2億56百万円（21.5%）減少し、9億35百万円となりました。これは主に役員退

職慰労引当金が1億29百万円(60.3%)、長期借入金が1億20百万円(14.7%)減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は前期末に比べ30百万円(1.3%)減少し、23億23百万円となりました。これは主に剰余金の配当が24百万円、その他有価証券評価差額金が15百万円(18.4%)減少となったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は40.7%(前事業年度末は37.6%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年10月25日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」で下記の通り修正を行っております。

平成26年3月期通期の業績予想数値の修正 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	8,800	200	185	70	8円50銭
今回修正予想 (B)	8,500	160	150	50	6円07銭
増減額 (B-A)	△300	△40	△35	△20	—
増減率 (%)	△3.4	△20.0	△18.9	△28.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	8,610	159	173	67	8円17銭

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,419,997	1,117,268
受取手形及び売掛金	184,688	154,070
商品及び製品	856,760	823,563
その他	514,975	424,147
貸倒引当金	△1,340	△1,320
流動資産合計	<u>2,975,080</u>	<u>2,517,729</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	927,092	922,112
土地	777,494	777,494
その他（純額）	125,052	115,241
有形固定資産合計	<u>1,829,639</u>	<u>1,814,847</u>
無形固定資産	35,698	34,496
投資その他の資産		
投資有価証券	356,675	334,260
差入保証金	668,152	660,595
その他	423,908	382,195
貸倒引当金	△36,040	△35,150
投資その他の資産合計	<u>1,412,696</u>	<u>1,341,901</u>
固定資産合計	<u>3,278,034</u>	<u>3,191,245</u>
資産合計	<u>6,253,114</u>	<u>5,708,975</u>
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	604,252	469,391
短期借入金	582,000	682,000
1年内返済予定の長期借入金	650,104	628,843
賞与引当金	56,000	52,000
その他	814,519	618,016
流動負債合計	<u>2,706,875</u>	<u>2,450,250</u>
固定負債		
長期借入金	819,044	698,631
退職給付引当金	127,610	122,588
役員退職慰労引当金	215,340	85,500
その他	30,200	28,710
固定負債合計	<u>1,192,195</u>	<u>935,429</u>
負債合計	<u>3,899,070</u>	<u>3,385,680</u>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	957,000	957,000
資本剰余金	985,352	985,352
利益剰余金	334,317	318,848
自己株式	△5,303	△5,366
株主資本合計	2,271,366	2,255,833
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	82,677	67,461
評価・換算差額等合計	82,677	67,461
<b>純資産合計</b>	<b>2,354,044</b>	<b>2,323,295</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,253,114</b>	<b>5,708,975</b>

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	4,447,368	4,099,290
売上原価	2,649,961	2,420,463
売上総利益	1,797,406	1,678,827
販売費及び一般管理費	1,680,035	1,636,068
営業利益	117,370	42,759
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,717	2,446
受取手数料	5,542	2,586
貸倒引当金戻入額	990	910
保険解約返戻金	—	12,618
協力一時金	—	3,080
その他	954	1,115
営業外収益合計	10,204	22,757
営業外費用		
支払利息	16,920	14,703
その他	282	557
営業外費用合計	17,203	15,261
経常利益	110,371	50,254
特別利益		
固定資産売却益	2,114	1,143
特別利益合計	2,114	1,143
特別損失		
固定資産除却損	654	2
減損損失	—	4,588
特別損失合計	654	4,591
税引前四半期純利益	111,831	46,807
法人税等	61,745	37,567
四半期純利益	50,086	9,240

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

#### 4. 换算情報

##### 売上高の状況

当第2四半期累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）における売上高の状況を報告セグメント別に示すと次のとおりであります。

##### (報告セグメントの概要)

当社は、主にカルチャー教室、音楽教室の運営事業、ピアノ、管弦打楽器、楽譜等の楽器の販売、CD、DVD等のAVソフトの販売を行っております。

店舗事業部は主に管弦打楽器、楽譜等、楽器全般の販売及びCD、DVD等の音楽ソフトの販売、音楽教室事業部は音楽教室の運営と主にピアノ、電子オルガン等の鍵盤楽器の販売、カルチャー事業部はカルチャー教室の運営をそれぞれ担当し、管轄する教室又は店舗について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、サービス、販売体制を基礎とした事業部別のセグメントから構成されており、「店舗事業部」、「音楽教室事業部」、「カルチャー事業部」の3つを報告セグメントとしております。

報告セグメントの名称	金額（百万円）	対前年同四半期増減率（%）
店舗事業部	1,601	△ 13.4
音楽教室事業部	1,274	△ 8.7
カルチャー事業部	1,223	1.8
合計	4,099	△ 7.8

注1) セグメント間の取引については相殺消去しております。

注2) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。